

第2回 桐生市総合計画審議会 議事要旨

○日 時 平成30年12月26日(水) 午後1時30分～午後4時10分

○場 所 桐生市役所 2階 正庁

○出席者 21名

【審議会】14名

会 長：群馬大学大学院理工学府 特任教授	宝田 恭之
副会長：桐生市総合教育会議 教育委員	新居 理恵
委 員：桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
桐生市農業委員会 会長	鎌塚 大作
桐生市区長連絡協議会 副会長	田所 武男
きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
桐生市社会福祉協議会 副会長	塚田 征子
桐生市まちづくり検討委員会 委員	金井 昌信
桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 委員	佐羽 宏之
桐生市婦人団体連絡協議会 会長	鈴木 英子
新里地域懇談会 会長	松島 孝三
黒保根地域懇談会 会長	金子 敬
公募市民	奥村 千鶴子
公募市民	河村 英輝

(欠席者)

委 員：桐生市子ども・子育て会議 会長	尾花 悦子
桐生市医師会 理事	鈴木 康郎
桐生青年会議所 副理事長	葉山 勇

【桐生市】6名

<事務局>副市長	鳥井 英雄
桐生市総合政策部長	和佐田 直樹
桐生市総合政策部企画課長	田島 規宏
桐生市総合政策部企画課企画担当係長	金子 英雄
桐生市総合政策部企画課企画担当	小松 直也
桐生市総合政策部企画課企画担当	村田 健太

【計画策定支援事業者】1名

株式会社ぎょうせい

【傍聴者】なし

【報道機関】1社

○会議内容

1 開会 [開始：午後1時30分]

- ・事務局より、過半数以上の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 会長挨拶

- ・宝田会長より挨拶。

3 議題

- ・議事進行は、桐生市総合計画審議会規則第4条の規定により、会長が議長として行う。

(1) 市民意識調査（アンケート）等の結果について

- ・資料4-2、5、6及び7に基づき、事務局より説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	このようなアンケートは今までに実施したことがあるのか。
事務局 (企画担当)	今回のアンケートは総合計画策定のために実施したアンケートであるが、桐生市では2年に1度、「市民の声アンケート」という各行政分野にわたり満足度等を聞くアンケートを実施している。
会長	中学生からアンケートを取ったことはあったのか。
事務局 (企画担当)	福祉などの各行政分野においてアンケートを実施しているものはあるが、今回のようなまちづくりに関するアンケートは実施がないと思われる。 なお、現行の「新生総合計画」策定時は、市内に在学する高校生にアンケートを行っている。
委員	<p>現在の生活における実感度と、自分の幸福感にそれがどれくらい重要かを自己評価した重要度を使い、施策になり得るものを分析しているが、現在の幸福度を聞いているので、それと実感度がどう影響しているかを分析すれば、自己評価した重要度を使わなくてもいいのではないかと感じた。なぜならば、重要度の結果を見ると、一般的に重要だと考えられるものが上位に来ている気がする。現状において市民の幸福度が何で決定しているのかを要因分析し、どの要因が幸福度に影響しているかを議論して、今後重点的に取り組むべきものを考えたほうが良いのではないかと感じた。また、幸福度と個人属性の分析があるが、この結果を見ると、もしかしたら幸福に対する実感度についてどう答えていようと、ほぼすべてが個人属性、特に収入で決まってしまうのではないかとこの傾向も見られたので、重要度で評価するのではなく、幸福度と実感度で分析した方が、いまの市民の生活に合わせた施策項目というのが見えてくるのではないかと感じた。</p> <p>それと、他地域において、自分の研究として行ったアンケートに関する情報提供になるが、小・中学生とその保護者、ほとんどが母親になるが、同じアンケートを答えてもらう中で、地域への愛着と今後の居住意向について聞いた。母親も子供もそれぞれで言えば、愛着が高いほど将来もこの地域に住みたいという傾向が見られ、これは当たり前の関係であったが、母親の愛着が低いと子供の愛着も低く、そして、母親の居住意向が低いと</p>

	<p>子供の居住意向も低かった。つまり、全国の多くの小中学校で、郷土愛を高める教育を行っているはずだが、家庭において、一番身近にいる母親が、この土地には何もないということを書いていけば、何をしても無駄ということである。そして、そのような母親とはどういう人かということ、外から来たお嫁さんになる。生まれ育った場所にずっと住んでいる人は一番地域への愛着が高く、桐生市内だけど、生まれ育ったところとは別の場所に住んでいる人はそれなりの愛着であり、外から来た人はほぼ愛着がない。</p> <p>こういうアンケートで悪いところばかりの意見があるというのは、子育て環境としてかなり良くないと思われる。中にいる人が自分の住んでいるところを悪く言わないということは絶対条件で、是非そういう視点を、人任せで誰かが、市役所がやってくれるだろうという、いまの普段の生活、姿勢のあり方が、桐生が良くなる原因であるということが、市民に伝わるような方向性みたいなものを計画に入れられたらいいと感じた。</p>
会長	<p>データの解析については、その方向で事務局に検討いただきたい。</p> <p>今の話は私も重要だと思っており、未来創生塾はその辺を一番考慮し、母親たちの考え方が変わらないと全体の意識は変わっていかないということで「親子」で参加することとしている。最近、市外から桐生に引っ越してきて、桐生のことを知りたいということで、未来創生塾に入っている人が何人もいる。そういう方はものすごく熱心で、非常に面白いと評価いただいている。</p>
委員	<p>市民も中学2年生も、桐生の良いところとして自然環境という声があったということで安心している。桐生の魅力のひとつは、自然環境、あるいは、人と自然との共生と思っている。桐生市単独での行政運営ということではなく、例えば、国による「森林経営管理法」の制定など、もっと大きな流れも見て、総合計画を考えていけたらいいと思う。</p>
委員	<p>アンケートの回答を見ると、「やるのは私ではなく行政である」という、何かが起こるのを待っているような感覚で回答しているように感じる。交通の安全な都市がいいと言っているが、現実として、横断歩道で手を上げて止まる車はいない。だれが止まらないのかということ市民が止まらない。これでは安全にはならない。総合計画ということで「行政がこうします」というよりは、最終的に「市民がこう行動します」という話にしていかないと、結果は変わらないのではないかと思う。</p> <p>また、桐生の特徴で、自然が良いとあったが、その自然を使う計画にしないとユニークな将来構想はできないと思う。山は山、街は街、という縦割りではなく、そういうことを総合的に、かつ、市民が実際に行動するような計画を立てない限り、結果は変わらないと思う。</p> <p>それと、利便性に関すること、商店街とか企業の誘致とかあるが、「私は勤める人であって、事業をする人ではない」という感覚で書かれている。勤め先がある事に越したことはないが、スモールビジネスでいいから、「外から誰か来てやってよ」ではなく、市民が自分で事業を起こすというような教育からスタートして行って、本市には群馬大学理工学部があるので、そこで事業を起こしていくような人材の育成というところに力を入れると</p>

	か、ともかく市民が主体となって行動することでない、どんな計画を立てても絵に描いた餅になってしまうのではないかと感じた。
会長	そのとおりだと思う。今までの総合計画は市役所で作っていただいたものを審議会で委員が見て直すというものであったが、今回はやらなくてはならない我々市民、総合計画審議会の委員、みんなで作っていくことを狙っている。
委員	行動という話があったが、まさに同感で、他人事というところがあって、なおかつ、ないものねだりというところがある。外から来た私としてはショックだったのが、若い人がファッションウィークを知らないということである。外から来た私としては素晴らしいと感じており、おそらく、若い人もファッションウィークの中のクラシックカーフェスティバルは知っていると思うが、つまりそれは何かがあるか関心がないということであり、他人事というところがあって、自分が何をやるか、行動するか、できるか、自分事ができていないということだと思う。たとえば、この審議会での話も他人事と思われてしまうと、行動しないと、絵に描いた餅になってしまうのは非常に嫌だと思っている。市民をもう少し参加させる仕組みを取ればいいと感じている。例えば、ほかの市では、中学生等に計画の愛称を考えてもらったりしている自治体もある。市民に担保させるような仕掛けがあってもいいのではないかと思った。
会長	先日、市民と集まる機会があったので、現行総合計画である「桐生市新生総合計画」の概要版を持っていき見せたが、誰も知らなかった。これではまずいと思う。今回はそうではなく、市民が関与しているということが上手く訴えられるような仕掛けを作っていけたらいいと思う。
委員	市民アンケート結果の良いところや悪いところといった点は、日頃、我々が感じているところと、多かれ少なかれ一緒であると思った。 いままでの総合計画は施策が全般的に幅広く出てくることが多いが、一番大事なのはその中で優先順位をどうつけていくかである。計画を作るだけでなく、その後、実際にやっていくことがとても大事であるので、出てきたものに優先順位を決めて、具体的にこうしていくというところが一番大事なような気がしている。
会長	アンケートの結果で良かったと思ったのは、ここに住み続けたいかという設問に対し、一般の人は60数パーセントが居たいと答え、居たくないと答えた人は8パーセントしかいなかった。中学生も帰ってきたくない、ここから離れたいが合わせて20パーセントであった。かなりの割合でここに居たい人が多い。そういうことであれば、しっかり、居続けるために不安材料を取り除くというのも重要だなと感じた。それと、働く場所がないという意見が多いが、まちづくりにすごく重要なことだと思うが、その定量的なデータというのは何を見たらいいのか。職を求めている人、求人数との割合、求人を求めている企業のランク付け、そういったものを提供していただけるかと思う。総合戦略推進委員会で、桐生商業高校の卒業生

	が、桐生に勤めたかったが、結果として前橋、高崎に行ったという話があった。それは、勤める場所がなかったのかという気もするが、その辺のデータを教えていただくとありがたい。
事務局 (企画課長)	これまでの資料にはないデータなので、先ほど、発言いただいたアンケートの再分析、そちらと併せて計画策定支援事業者と相談の上、用意できるものがあれば次回以降に用意したいと思う。考えられるものとするれば、働く場所ということで、事業所統計や有効求人倍率の推移についての県内、あるいは全国との比較などが用意できるかと考えている。
会長	もう一点、感じたのは、最も魅力のある都市を選ばせているが、県内の都市との比較ではなく、東京という選択肢もあった方が良かったのではないかと思った。もっと大きく言えば、海外の都市があっても良かったのではないかと思った。
副会長	就職先のデータに加え、桐生で新たに起業した人の数がわかると面白いと思う。いま、企業に関するワークショップやセミナーなどが流行っている中で、果たして桐生で起業している方がどれくらいいるのか伺いたい。
事務局 (企画課長)	こちら相談させていただきたいが、統計という形で思いつくところがないが、専門の部署、産業政策課で把握しているもの、また産業政策課で所管している支援事業を活用して起業されたケースがいくつもあると思うので、そういった部分で提供できる資料があるかこのあと確認をさせていただきたい。

(2) 基本構想に関する検討について

① “将来都市像” 及び “まちづくりの基本テーマ (理念)” の検討について

- ・資料8に基づき、事務局より説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	それでは、まず将来都市像からご議論いただきたい。すぐにまとめるということではできないと思うので、キーワード的なものを出していただければと思う。
委員	SDGsもあるが、最近は「サステイナブル」が、将来に渡っていかに持続をさせていくかということがキーワードになっているので、これは当てはまるのではないかと思う。
委員	アンケート等にもいろいろ出ているが、「官民協働」や「市民協働」など、こういったワードが入っていた方が良いと思う。
会長	コミュニティが一体化していくということは、社会の根本にあるので、その辺も入れていきたい。

委員	<p>キーワードということなので、先ほど出てたかもしれないが、「“ないものねだり”より“あるものづかい”」、それと、後ろ向きに取られると良くないが、「足るを知る」ということが縮小社会において非常に重要であると思う。</p>
委員	<p>先ほども触れたが、近隣他市と比較して桐生の特性としては自然を守って活用しているという部分で、具体的に言えば「森林保全」であるが、「自然との共生」が重要と考えている。</p>
委員	<p>子育てしやすいようにと言っていたので、これはそのまま入れていただきたいと思うが、育て終わった子供が働くところが少ないということがかなり指摘されていて、それを足る分だけ用意できるかといったら、先ほど発言があった“ないものねだり”となってしまう。そうすると、数は少なくても質が高い子供が育てられるというようなことを強く出しても良いと思う。目指すのは、優秀な子供を育てて外へ輩出し、志を果たしたら戻ってくる。そして、その人たちがまた優秀な子供を育てていくという形で循環していくまちというのが良いと思う。</p>
会長	<p>優秀な人材を輩出していくということは良いことだと思う。桐生出身者はすごいということを世界に示せたらブランド力は上がる。それで、桐生の財政は現在厳しい状況であるが、外へ出ていった子供らが稼いで、ふるさと納税をしてもらえれば桐生はもっと豊かになる。</p> <p>前回、委員長をさせていただいた時に「伝統と創造 粋なまち桐生」という将来都市像を作ったが、これを作るのにかなり苦労した。今回もみなさんの意見を集約し、こういったキャッチフレーズを作り、少なくともこれからの8年間、こういう方向性で行くということをやうまく表せたらいいと思っている。</p> <p>先ほど、概要版の話をしたが、あまり市民に浸透していない。これも大きな問題であると思っている。事務局から、まちづくりの基本テーマの説明をいただいたが、随分良いことを言っていると今更ながら感じた。ただこれを市民に聞いて、知っているという人間は多分皆無だと思う。せっかく総合計画を作っても今までと同じことをやっていたら、審議会の委員と市役所の職員だけが知っているということになってしまう。全体はいらないが基本的な部分だけでも市民の方々に分かるように考えていきたい。</p>
委員	<p>未来を創造できる人が集まり、その人たちがまちづくりをするということで相乗効果が生まれる。そして、まちが人を呼び寄せてまちを作っていくという循環が目指せたらいいのかなと思う。例えば、市の外にファンがいると応援してくれる。やはり人口は全国的に減少しており、どこも苦しいと思うがそうするとどこも人を増やそうということをやするが、先ほどのふるさと納税の話や、一旦市外へ出てまた戻ってくるといった話のように、外にファンをつくるということは非常に大事なことで、市内外や様々な世代間のつながりと連携を持っていくことが大事になってくると思う。アンケートでは、活気という言葉がキーワードとして出ていたので、賑やかにするとか刺激することを我々がいろいろ考えていくことが大事なのではない</p>

	かと思う。また、それは我々市民が一緒になって、積極的に自分事で実施していくことがまちづくりにとって大事だと思う。
会長	<p>将来都市像とこのあと議論しようと思っていた基本テーマの第一歩のところは共通している部分があり、両方とも聞くことができた気がする。</p> <p>私個人としては、官民協働というのもあるが、人のつながり、心からのつながりを、昨年1年、病を患って感じることもあり、そういった気持ちのつながりのようなものでとても助けられた。これから人が少なくなってくる中で本当の意味で気持ちと気持ちがつながれるような、そういうものが必要になってくるのではないかと思う。それを実施するには、桐生は特に恵まれている。感性豊かな人材が非常に重要であると考えている。感性が身に付いた人であれば人の気持ちも分かる。桐生はそれを育てるための自然や文化、歴史、産業がみんなすぐ手の届くところにある。このような環境は他にはない。そういったところで、みなさんと本当の気持ちと気持ちがつながるということを目指していければいいと思っている。</p>

(2) 基本構想に関する検討について

②桐生市が今後取り組むべきこと

- ・事務局より説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	先ほど、将来都市像及びまちづくりの基本テーマについて意見いただく中で、桐生市が今後取り組むべきことについても発言があったが、さらにここで意見をいただきたいと思う。なお、桐生市役所への要望、桐生市役所がやるべきことということではなく、桐生市がやるべきことについて意見をお願いしたい。
委員	<p>「前例が無いを言い訳にしない」「フットワークを軽く」をあげたい。</p> <p>先ほど会長が、総合計画について市民が知らないということをやっていたが、私が専門の災害ハザードマップも全く一緒に、作った人間だけが良く知っていて、他の人は見ない。見ないで被災した時は、被災したのは行政のせいだと人のせいにする。この問題については、やる気になればいくらでも解決できるはずであり、例えばお金を取って全員に無料配布をしないとか、市民が行き来するスーパーやコンビニなどのガラス全部に貼ってもらう等の方法がある。総合計画も本気で知らせたいと思ったら、A3両面の3色刷りの概要版を作成するお金があるならば、大きなA0版のポスターを作成して市内のいたるところに貼れば良いと思う。でもそれを実施するにも、前例がない、要望がないと言ってやらないので、もっとフットワークを軽く、面白いことをやった方が良いと思う。今時の言葉で言うならば、定期的に“バズる”。インターネット上で、桐生市が何かやっているというのがいつも話題になるくらい面白いことをやっただけでいいと思う。ただ、これをやるには、桐生市民の気質を変える必要がある。桐生市は私が今まで仕事をさせていただいている中で筋を通さないといけない方が非常に多く、何か新しいことをしようとするとなかなか進まない。残念</p>

	<p>ながらこれは、群馬県の中でも顕著にそういった気質の傾向が強い。市民のほうからも暖かくみんなを受け入れて、新しいことが出来るような雰囲気を感じていただきたいと思います。</p>
会長	<p>その通りだと思う。桐生市を支えてきたのは織物業で、織物業の方は一国一城の主であり、ものすごい数になる。そうすると、総論賛成、各論反対がほとんどといった感じがある。だから、私が先ほど言った「つながり」というのは、現状を反省して、つながっていかないと桐生は将来うまくいかないという思いで、逆に言うとそれが出来たらすごいパワーとなる。そういったことをこの総合計画の中にも反映していきたいと思う。</p> <p>また、私はいま、桐生に来て初めて町会委員をやっているが、あの組織を利用すれば、上手く情報伝達ができるのではないかなと思う。</p>
委員	<p>桐生市民が、桐生の資源とか良いところをもっと知るべきであると思う。映画の撮影場所にもなった西桐生駅は、それまで脚光を浴びていなかったと思うが、先日、桐生市に観光に来た若い男性に道を聞かれ話す機会があった。インスタ映えするようなカラーの駅舎ということで、西桐生駅を撮影したいとのことであった。</p> <p>また、アンケートの結果には公園が少ないという意見があったが、新川公園などは四季折々の季節を感じられる良い場所で、コロンバス通りも春と秋などは季節感があるので、もっと整備すれば観光地になると思う。もっと桐生市民が自分のふるさとを知って発信していくべきだと思う。</p>
委員	<p>ぜひ、地元の埋もれているいろいろなエネルギーを活用した“エネルギー独立”をお願いしたい。</p> <p>それと、昔、シリコンバレーには大学があり、起業する人がいる立地になっていたということで、群馬大学も昔、カーボンの発明で世界のトップを走っていた当時、カーボンバレー計画という話もあった。そういうキー技術を利用した学究起業都市のようなものを目指すのも良いと思う。</p> <p>それから、先ほどの資料の中にテキストマイニングというものがあったが、例えば中学生がショッピングモールと書いている。ショッピングモールというのは多分イオンなどのことだと思うが、考えてみれば2階建ての商店街であり、桐生には日本で一番長いような商店街があるわけで、何て名前を付けるか、どういう風にデザインするかと、解釈の変更をしてみたらどうだろうか。そうすると桐生は財産持ちであると思う。</p>
会長	<p>私も同意見で、桐生の商店街にはたくさんのお店がある。先日、その話を別の会議で議論したが、ショッピングモールと何が違うかということ、皆さん商店街のお店はドアを開けるのが怖くて入れない。親がそうであれば当然子供も入らない。それに比べてショッピングモールはお店がたくさんあるがドアがないため、どこでも自由に入ることが可能であり、そこが全く違う。商店街をすぐにそういう風に変えることは出来ないと思うが、少なくとも意識の問題であり、それを解決する活動を細々ではあるが我々が行っている。やはり、店に入らないと始まらないし、入れば面白い。買わなくても問題ないが、皆さんは入ったら買わないといけないという気持ち</p>

	<p>があると思われる。それを我々はジャストルッキングツアーと呼んでいるが、とにかくお店に入ろうという動きをやっている。入ってみれば、そのお店のおじさん、おばさんはずっとお店を運営してきて桐生のまちの話なども聞ける。そういったことも含め、私は、商店街は専門店街になるべきだと思っている。一般的な物を売っているだけでは誰も来ないが、あそこに行けば専門性が高くいろいろな物があるという風になれば、そこからつながってどこにどういうお店があるというマップが出来る。時間はかかるがこういう動きが出来れば良いと考えている。先ほど発言があったように、こんなに長い商店街があるのだから活用していくべきであり、解釈を変えるという見方も必要であると思う。</p>
委員	<p>先ほどから皆さんの話を聞いていると、ほとんど理想論であり、この中心市街地のことを考えているようである。黒保根も桐生市であり、その中でも先ほどから自然との共生といった意見が出ているが、現実には厳しい。少子高齢化が進んでいるが、それは環境が厳しいからこそ街へ出てしまうということ。現在、定住促進住宅を建築しており、確かに若者が来るかもしれないが、ただ、子育てとなると塾などの送迎で街まで行かないといけないため、子育てのちょうど良い時期に、街へ引っ越してしまうのではないかと思う。理由は他にもいろいろあると思うが、若者が出ていき高齢者が残ってしまっているという状況の黒保根地区のことを考えていただきたい。</p> <p>また、国際化ということで黒保根には英語専門の教師が来ているが、本当に英語特区にするのであれば、例えば倉渕村のようにするか、思い切って太田市にある「ぐんま国際アカデミー」のようなものを黒保根地区に作ってもらえれば、もっともっと若い世代、優秀な人材が来ると思う。そうすれば、桐生市自体のレベルも上がり、人を集めるということについても一番良い方法であると思う。民間でも検討していただきたい。</p> <p>例えば、厚生病院を黒保根に移転するとか、市街地から黒保根に直通的トンネルを開通させるとかそれぐらいの勢いがないと発展していくのは厳しいと思う。他にも交通面なども目を向けていただきたい。</p>
委員	<p>少子化の問題であるが、いまの子供は結婚したいという願望がない。私たちの団体では県や市と協力して婚活パーティーをしているが、男女の参加者で年齢差があったりする。青年会議所などでも実施しているので、希望者のデータ共有ができるといいと思う。</p>
会長	<p>新里の農産物、黒保根の自然や英語教育など、それぞれとても魅力的なものであるので、市全体で共有して、計画をまとめていきたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>縦割りではない連携した取り組みを入れていただきたい。横串を指すという言葉があるが、ひとつのことでも連携してできるような、そんな取り組みが取り込めるといい。</p>

事務局 (副市長)	横串という話に関しては、基本として常に頭に置いた上で、物事を考えたり、アクションを起こしていく必要があると認識している。
会長	<p>先ほどから話に出ているいろいろな人とのつながりということで、総合計画をみんなで作るということになれば、委員の皆さんだけではなく、皆さんの地域内の人の意見も重要である。私は審議会の会長なので、積極的に皆さんの意見を聴取している。皆さんも委員であるので、意見をたくさん聴取して良いと思う。アンケートをいただいたり、提言いただいたりしているわけであるが、委員一人ひとりが意見を聴取したら、その分のデータがもっと増えることになる。市民に総合計画の進捗を周知徹底するという観点からも、これからの桐生市の一番大切なことであるから、こういった桐生市になると良いといった意見が出てくると思う。そうした意見をどんどん反映していく。意見を言った人は覚えている。一人が二人、四人と、あっという間に十万人になるのではないか。そうしたことから周知徹底するというをお願いしたい。</p> <p>今後桐生市が取り組むべきことという意見はまだまだあると思うが、3月までに基本構想をある程度形にし、具体的な中身はその後ということであるので、何かその間に意見があれば事務局の方に提出してもらいたい。</p>

(3) 議事録(要旨)の公開について

- ・事務局より説明。
- ・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	公開の期限については、どのようにするか。
会長	事務局に何か考えはあるか。
事務局 (企画担当)	事務局案ということではないが、市ホームページ上で公開するに当たり、例えば総合計画の計画期間に合わせ、前期基本計画の4年間とすることなどが考えられる。何か意見があればお願いしたい。
委員	前回と同様であればその期間で良いと考える。
会長	他に特に意見がないようであるので、公開の期限は計画期間に合わせることにし、事務局案のとおり議事録を公開するというところでよろしいか。
	一同承認
会長	議題は以上になるが、その他に何かご意見等があればお願いしたい。
委員	今月号の広報きりゅうで地方創生の取組の特集記事が掲載されており、その中で市の様々な制度を使用して、桐生市に転入し定住された人数が数値として示されており、平成27年4月から平成30年10月までの3年半の間に4,358の方が桐生市に定住又は移住したとのことである。その中

	<p>には世帯分離の方なども含まれると思うが、実際に市外から転入した人数の内訳はあるか。</p> <p>私が住んでいる9区の町会内には2つの高齢者施設があり、1,250世帯の内の約1割がここで住民登録をした市外の方であった。この施設ができたことから、市内で最も高齢化率が高くなっている。この施設ができる際の地元への説明では、施設ができた後には施設の入所者の見舞いなどに家族の方が来て市内を回遊するといった話があった。実際には、このような施設に入ると家族との関係は疎遠になるということもある。</p> <p>また、今度宮本町にある施設の同業者が本町五丁目にも高齢者住宅を建設するということである。東京方面から来る方や住民登録を移さない方も半分位いるかもしれない。</p> <p>人口と世帯の推移を毎月見ると、人口は毎年減る一方であるが、世帯は増えることもある。そういったこともあるので、次回でも構わないが、この制度を活用し、市外から転入された方がどのくらいいるのか教えてもらいたい。</p>
事務局 (企画課長)	次回、お答えしたい。

4 その他

- ・事務局より、次回の開催日程について事務連絡。

5 閉会 [終了：午後4時10分]